

エルデニ・ゾー博物館

—モンゴル最古のチベット仏教僧院

小林 繁樹

民博文化資源研究センター



宗教施設が博物館になったとしても、

「聖性」が失われ、「世俗化」してしまっわけではない。

展示や収集、保存、修復という博物館の活動を通して、

宗教活動が活性化する可能性を秘めている。

寺院から博物館に

「エルデニ・ゾー」を訪れたのは、昨年七月半ばだった。五年ぶりの再訪である。

エルデニ・ゾーはモンゴルのほぼ中央、ウブスハンガイ県のハラホリンにある。首都ウランバートルからほぼ西方、三六〇キロメートルほど離れたハラホリンへは、四輪駆動車を任立てて行った。五年前のガイドブックと見比べてみると、飛行機はチャーター便しかなかったものが週二便の定期便となり、長距離バスも午前中に出発のようなあいまいなものから定時出発となり、しかも所要時間が約二時間から六時間強と大幅に短縮されている。実際は、昼食や休憩などを入れながら九時間を要したけれど、道路は整備され、舗装されていた。一九九〇年に始まった民主化、市場経済化の進展はめざましいばかりである。

ハラホリンは地区の中心地とはいえず、小さな町である。しかしここは、かつてモンゴル帝国の首都がおかれ、カラコルムとよばれていた。オルホン川流域のこの地は六万年前から人が住み始め、六世紀に遡ることができる突厥という名で知られるテュルク系民族の遺跡や史跡も多い。一三三五年には、モンゴル帝国第二代のオゴデイ・カアンが首都を建設する。カラコルムの都市遺跡は調査中であるが、考古学的・歴史的に重要なこの一帯は、二〇〇四年に「オルホン渓谷の文化的景観」として世界遺産に登録されている。そして、カラコルム都市遺跡の上に建つ、もともと新しく規模が大きい建築物がエルデニ・ゾーである。

一五八六年創建で「三玉の像」といわれるエルデニ・ゾーは、一〇八基の白い仏塔が配置されている。四〇〇メートル四方の重厚な外壁で囲われた寺院群である。壁の四方には楼門がある。一九七二年には、敷地内に六二の寺院と五〇〇棟の建物があり、二万人ほどの僧がいた。多くの建物が破壊された一九三〇年代の粛清時を経て、現在は一八の寺院や建物が残っているだけであり、一九四四年に国家が保護し、一九六五年に博物館となった。寺院や仏具などはすべて博物館資料となり、建物の修復や散逸資料の回収もおこなわれている。

近づくこと、まずその規模の大きさに驚いてしまう。全貌は近くの丘の上からでないと見ることができない。入口となる西の楼門前は、相撲などの競技がおこなわれる夏の祭典ナーダム明けとあつてか、来訪者の車であふれかえっている。入口近くにある博物館のほか、現在、八力所が展示対象で、中心は三寺の伽藍、仏舍利塔であるソボルガン塔、ラブラン寺伽藍である。内部はチベット仏教寺院そのものであり、小振りの仏像や壁画、掛軸などはガラスの仕切りで保護されている。けれどその赤色の枠がしっかりとできていて、鑑賞の際、多少目についてしまう。

仏教への回帰

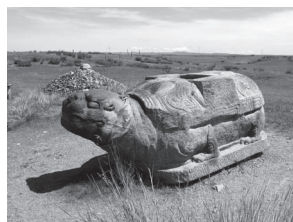
エルデニ・ゾーでの最近の動きとしては、一九九〇年から仏教活動がこの博物館のなかで再開されたことがあげられる。伝統的文化や民族文化を見直すうちに、宗教への回帰も始まったのである。ソボルガン塔の前には五体投地の台が設置されているし、ラブラン寺では多くの僧が読経している、厳粛な気持ちになる。博物館と寺院との共存はおおくの問題を含むだろうが、上手に乗り越えていってほしいと思う。

さらに、一昨年の二〇一二年六月、日本の政府開発援助によりあらたにカラコルム博物館がすぐ隣に開館した。周辺の埋蔵文化財の展示、保存、研修、修復を目的とした博物館である。観光地化も進む今後は、両者の相乗的な効果があがることだろう。

今回の、わたしのエルデニ・ゾー訪問は、民博の同僚、園田直子教授を日本側コーディネーターとする日本学術振興会研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」の共同研究会の一員として参加したものであった。民博は一九九四年から国際協力機構と協力して博物館学関連の研修を実施しており（二〇〇四年からは委託事業）、この研修を修了したモンゴルの博物館や文化施設の専門家は一人にも達している。ハラホリンの研究会でも、活躍していらっしゃる皆さんとの研究交流を深め、問題や検討課題を共有して、解決に向けての行動を誓いあったことは言うまでもない。



2011年に開館したばかりのカラコルム博物館内部



カラコルム都市遺跡にたえずむ、石碑を載せる台座である亀趺（きふ）



宗教活動が再開されているラブラン寺



三寺のなかの西寺の釈迦牟尼像



寺院内部の様子。展示物のおおくがガラスで保護されている



丘の上から見たエルデニ・ゾー全景。奥にカラコルム都市遺跡が広がる